



プラント事業部1課 課長
東海営業所 所長

伊藤 寿雄

伊藤寿雄は、さくら株式会社プラント事業部1課の課長ならびに東海営業所の所長を務める。「アニー」のニックネームで親しまれ、メンバーたちからの信頼も厚い伊藤の、活躍の原点に迫った。

さくらとの運命の出会い

伊藤が社長の高橋と出会ったのは、今から約15年前。ある東北の現場で、職人として一緒に働いていた。さくらが誕生する前のことだ。そのときは、まだお互いに顔を知っている程度の間柄だったという。

数年後、同じ元請け業者が担当する現場で再び顔を合わせる、会社を立ち上げていた高橋は社長になっており、専務や常務といった創設メンバーも一緒だった。その現場は仕事量が多く、かなりタイトなスケジュールを要求された。朝から夜までずっと働きっぱなしの状態で、「この現場は、定時が22時だ」と、皆で冗談を言っていて笑い合ったのを覚えている。次

の日の朝を迎えることも珍しくなく、ほかの業者が脱落するなかで、ハードな業務をコンスタントにこなしていたのが、元請け以外では自身とさくらのメンバーだけだった。

当時はまだ30代。周りの若いメンバーたちに負けないよう、必死に頑張った。苦難を共有したことで、高橋たちとの仲はいつそう深まったのだ。

「今思えば、このときには『いずれは一緒にいるのかな』と、どこかで感じていたような気もします」。

ウエルカムな雰囲気にも包まれて

苦労をともにした現場が終わり、数年が経ったある日の朝、伊藤は個人的な相談事があった、高橋のもとへ連絡を入れた。この電話が、大きな運命の転換点となった。話自体は2、3分もせずに終了。「電話ではなく、直接話し合おう」と、その日のうちに高橋が宮城から三重まで飛んで来てくれた

られる。これまでの悩みが一気に吹き飛ばすほどの達成感を味わえる瞬間だ。

さくらの一員であることの誇りと、現場のリーダーとしての自覚が、伊藤をさらなる高みへと引き上げる。

(後編に続く)

のだ。

夕食をとりながら、さまざまな話をした2人。はじめは相談の内容をじっくりと聞いていた高橋だったが、やがて姿勢を改めると「アニー」と、真剣な眼差しになって呼びかけた。

「アニーも、俺たちを助けてくれないか。ぜひ、さくらに入りたい。皆でワインウインの関係になろうよ」。

目の前に自分を本気で必要としてくれる人がいると思うと、目頭が熱くなった。そこから先はよく覚えていない。ただ、「入ります」と即答したことだけは確かだ。後



日、宮城の地に降り立った伊藤を、さくらのメンバーは笑顔で迎え入れてくれたという。

「アニー、ようやく来たな」。「ずいぶん待っていたよ」。温かい言葉の一つひとつが、抱えていた不安を吹き飛ばしてくれてのを覚えている。

かけがえのない仲間たちとともに

今ではすっかりさくらのコアメンバーとして活躍する伊藤だが、はじめの頃は会社になじみきれない自分を感じていた。「もともと自分は、外部からやってきた人間だから」といった気持ちが心の片隅にあったのだ。なぜ、そのように思っていたのか。おそらく無意識のうちに、創設メンバーたちへのうらやましさを感じていたのだろう。会社に深く関われば関わるほど、その思いは増していった。

それでも後輩や部下が増え、若い人たちからも「アニー」と呼ばれて頼りにされるようになって、そうした気持ちはいつの間にか消えていった。さくらでの充実した日々が、「ここが自分の居場所だ」

と自信を持って言えるほどまでに、自身を成長させてくれたに違いない。伊藤はそう確信している。

新たなステージでのやりがい

現在は、プラント事業部1課の課長として活躍している。現場管理業務を担う今、職人をしていたときは異なる楽しさや苦勞、やりがいを感じているという。職人だった頃の悩みは、「どうすれば溶接がうまくなるのだろうか」といった主に技術に関するもので、それは一人で解決できる悩みでもあった。だが、今は違う。部下やお客様など、さまざまな人との関わりの中で話し合いを重ねながら、働く人たちが安全に効率よく作業を進められるようにしていかなければならないのだ。

現場が動いている限り、心が休まるときはほとんどなく、しんどさも感じている。それだけに、仕事を無事に完了できたときのうれしさはとても大きい。一緒に働いた仲間たちと「やったな」と喜びを分かち合い、発注したお客様からは労いや感謝の言葉をかけても

Happy New Year

企業情報

設立年：2012年4月
年商：11.6億円
※2022年3月決算時点



入社半年の菅野さんと谷地さんの

成長報告!

新しく入社した菅野さんと谷地さんのお二人に、この半年間で感じた、入社前とのギャップやご自身の成長、さくらの魅力などについて語っていただきました。



入社して成長を感じる点

なぜこの作業をするのか、仕事の意味を理解

前職は幼稚園の先生で、全く違う職種でした。そのため、初めての業務がたくさんあり、それら一つひとつ実践していること自体が成長だと思います。「とにかくできることからやっていくしかない!」という感覚です。前職ととっても異なる点は、取引先が多く、たくさんの方とコミュニケーションを取らなければならない点。入社当初は、言葉遣い一つでも何が正解なのかわからず、手に負えなかったのが正直なところでした。最近になってやっと、点と点がつながってきて、何のためにこの仕事をやっているのかわかるようになってきました。

入社する前と後のギャップ

社内報のイメージ通り、楽しくて優しい印象

入社前の印象というのは、社内報に掲載されていた写真のイメージがかなり影響しています。新しい仕事を探しているときに、求人票に掲載されているホームページで社内報を拝見させていただきました。皆さん楽しそうで優しく、実際に入社してみたら、まさにその通りの会社で、入社後のギャップなどはありません。どのような会社かを知りたくて、入社前にほとんどの記事を読ませていただきました。

会社の様子や社員の人柄

未知の業務でも前向きになれる周囲のサポート

入社後は、わからないことだらけの毎日ですが、皆さん優しく教えてくださいますので、とても働きやすいと感じています。2023年10月から、総務部のメンバーが変わり経理担当になりました。私にとっては難しく責任のある業務ですが、周囲の方のサポートもあり、前向きな気持ちで取り組んでいます。思いやりがあるというか、アットホームというか、とにかく居心地がよい。皆さん本当に親切で、面倒見のよい方ばかりなのです。

総務部

すげのえりな
菅野 恵理奈さん



入社して成長を感じる点

入社当時はできなかった業務を今は1人で担当

総務部では安全書類を担当しているのですが、2023年9~10月から、その作業を1人でできるようになったことに成長を感じています。最初は先輩社員に指導していただいたり、確認していただいたりしていました。わからない部分は積極的に質問し、回数を重ねるうちに自信ができてきたのです。最近は、ほぼ私1人で担当できるようになりました。

入社する前と後のギャップ

普段は和気あいあい、仕事は真剣に取り組む

入社前に社内報を見て和気あいあいという印象を持ちましたが、入社してからもギャップはありません。ただ別の意味で、オンとオフのギャップは感じています。入社してから現場を見る機会があったのですが、普段の優しい雰囲気とは違う、真剣な眼差しで仕事に向かっている姿に驚きました。社内報で見ていた楽しそうな雰囲気、仕事に真摯に取り組む姿勢。前職が保育士で、まったく関連のない仕事に就きましたので、現場の厳しさが少しずつわかってきました。

会社の様子や社員の人柄

1人で抱え込まず、気軽に相談できる雰囲気

所属している総務部の先輩をはじめ、現場の方々などやさしい人ばかりです。まったく異なる業界から中途入社した私にとっては知らないことばかりですが、わからなくて困っていると必ず誰かが手を差し伸べてくれます。例えば、この業界で働く上ではさまざまな資格が必要なのですが、そうした知識についてもいつも教えてくださいます。そのため、1人で疑問を抱え込むことなく、とても働きやすい職場環境だと思います。

総務部

やちみさと
谷地 美智さん

さくらの一番の魅力は?

新しいことに挑戦する思いを後押ししてくれる

幼稚園の先生をずっとしていたため、一般企業で働くのは今回が初めてです。まったく業界未経験の私を採用してくださったこと自体が、当社の魅力の一つだと思います。前職を辞めた理由は、新しいことに挑戦したいという思いからだったのですが、今まさにそれを経験させてもらっています。新しいことを知り、できるようになることほど、楽しいことはありません。それにチャレンジさせてくれる環境があり、その思いをサポートしてくれる人たちがいる。これがさくらの魅力なのではないでしょうか。



さくらの一番の魅力は?

仕事に誇りを持っている方たちが集まる職場

皆さんご自身の仕事に誇りを持っていて、真剣に業務に取り組む姿勢が素晴らしいと感じました。また、私のいる総務部だけに限らず、何を、どこへ、いつまでに、というようにどなたも指示が的確。たまに、現場のトップの方に直接確認しなければならないこともありますが、上下関係にかかわらず、やさしく答えていただけます。まだ入社半年ですが、非常に働きやすい雰囲気のなかで仕事をさせていただいています。

